

研究業績一覧

長 有紀枝

1. 学位論文

修士論文：「現代日本のマイノリティ、アイヌ—その政治生活」1990年3月早稲田大学大学院政治学研究科

博士学位論文：「スレブレニツァ・ジェノサイド：冷戦後のジェノサイドへの介入をめぐる考察」2007年6月東京大学大学院総合文化研究科

2. 著 書

- 『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』（東信堂、2009年）
- 『入門 人間の安全保障 —恐怖と欠乏からの自由を求めて』（中央公論新社、2012年）
- 『地雷問題ハンドブック』（自由国民社、1997年）

3. 共 著（単行本所収論文）

- 「『人間の安全保障』概念を外交にどう活かすか」、東大作編『人間の安全保障と平和構築』（日本評論社、2017）181-201頁。
- “The Growing Role of NGOs in Disaster Relief and Humanitarian Assistance in East Asia”, in Edited by Rizal Sukma and James Gannon, *A Growing Force: Civil Society's Role in Asian Regional Security*, Japan Center for International Exchange, 2013 pp.66-89
- “Evolving Japanese humanitarianism”, M. Hirono and J. O'Hagan(eds.), *Cultures of humanitarianism: Perspectives from the Asia-Pacific*, Department of International Relations, Australian National University, pp.29-32, 2012
- 「平時の平和を再定義する—人道支援と「人間の安全保障」の視点から」、日本平和学会編『平和を再定義する：平和研究第39号』（早稲田大学出版部、2012年）49-67頁
- 「国際法とNGO」、美根慶樹編『グローバル化・変革主体・NGO - 世界におけるNGOの行動と理論』（新評論 2011年6月）181-239頁
- 「スレブレニツァで何が起きたか」、石田勇治・武内進一編『ジェノサイドと現代世界』（勉誠出版、2011年3月）225-248頁
- 「国際NGOの活動と難民・国内避難民の人権」、齊藤純一編、『講座 人権論の再定位第4巻 人権の実現』（法律文化社、2011年1月）239-259頁

- 「地雷対策」、内海成治・中村安秀・勝間靖(編)『国際緊急人道支援』(ナカニシヤ出版、2008年) 179-199頁
- 「NGOの視点からみた民軍関係の課題」、上杉勇司・青井千由紀編『国家建設における民軍関係 破綻国家再建の理論と実践をつなぐ』(国際書院、2008年) 171-185頁
- 「地雷禁止条約の弱点を補完するNGOの役割—ICBLと「ランドマイン・モニターレポート」を事例に」金敬黙・福武慎太郎他編『国際協力NGOのフロンティア』(明石書店、2007年) 237-262頁
- 「ネットワーキングとパートナーシップの強さ：地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)を事例に」小林正弥・上村雄彦編『世界の貧困問題をいかに解決できるか「ホワイトバンドの取り組みを事例として」』(現代図書、2007年) 93-102頁
- 「NGOの視点からみた民軍関係—NGOにとって民軍関係が意味するもの—」上杉勇司編『国際平和活動における民軍関係の課題』(広島大学平和科学研究センターApril2007) 129-144頁
- 「第1章：危機管理・安全管理とは何か」「第5章：人道支援とは」「第7章：倫理規定」、NGOの危機管理・安全管理研修助言委員会編『NGOの危機管理・安全管理ガイドライン』(特定非営利活動法人国際協力NGOセンター 2007) 11-18頁、69-86頁、107-120頁
- 「民軍協力とNGO」、功刀達朗・内田孟男編著『国連と地球市民社会の新しい地平』(東信堂、2006年) 303-317頁
- 「人道援助におけるNGOの活動：その役割、限界と可能性」、広島市立大学広島平和研究所(編)、『人道危機と国際介入-平和回復の処方箋』(有信堂、2003年)、113-140頁
- 吹浦忠正・柳瀬房子・長有紀枝(編著)『地雷をなくそう』(自由国民社、2000年)

4. 雑誌所収論文

- 「旧ユーゴスラビア戦犯法廷が遺したもの - 24年の正義と分断」『世界』(岩波書店) 905号 2018年3月号、216-226頁
- 「21世紀の難民問題」日本国際問題研究所『国際問題』2017年6月NO.662 1-4頁
- 「人道支援における『独立』概念をめぐる一考察」日本赤十字国際人道研究センター『人道研究ジャーナル Vol.6』(東信堂2017年) 40-54頁

- 「難民・国内避難民と内戦と」、広島市立大学広島平和研究所『広島平和研究』2017年3月第4号 Vol.4 5-12頁
- 「スレブレニツァで考えたこと - ボスニア紛争、 Dayton 和平合意が問いかけるもの」『世界』(岩波書店) 877号 2016年10月号、103-111頁
- 「難民対策の根本に置くべき「人間の安全保障」の視点」、朝日新聞出版『Journalism』2016年1月号 no308、37-44頁
- 「災害と人間の安全保障 - 東日本大震災の経験から」、『地域研究』 Vol.15 No.1、2015年4月30日刊 121-136頁
- 「スレブレニツァ・ジェノサイドを検証する」、日本の戦争責任資料センター『季刊戦争責任研究』2008年春季号(第59号)、18-25頁
- "The Role of Japanese NGOs in the pursuit of human security : limits and possibilities in the field of refugees ", *Japan Forum*, Volume 15, Number 2, 2003, pp. 251-265.
- 「イラク戦争と対人地雷の廃棄完了」、『世界と議会』、2003年6月号、19-27頁

5. その他報告・コラム・辞典など

- 「地雷禁止国際キャンペーン (ICBL)」広島市立大学広島平和研究所編『平和と安全保障を考える事典』(法律文化社、2016年) 317-318頁。
- 『サニーちゃん、シリアへ行く』絵: 葉祥明、文: 長有紀枝 (自由国民社、2016年)
- 「オタワ・プロセス」, 「地雷議定書」, 日本軍縮学会編『軍縮辞典』(信山社、2015年) 57-58頁、250-251頁。
- 「第59章日本のNGOの活動」、柴宜弘・石田信一編著『クロアチアを知るための60章』(明石書店、2013年) 335-339頁
- 「コラム③ 国際平和活動における人道 NGO 民軍の連携アプローチについて」、山本慎一、川口智恵、田中(坂部)有佳子編著『国際平和活動における包括的アプローチ - 日本型協力システムの形成過程』(内外出版、2012年)、頁
- 「コラム2 ユーゴスラヴィア紛争と日本のNGOの活動」、柴宜弘編著『バルカンを知るための65章』(明石書店、2005年) 189-190頁

- 「対人地雷と平和構築～アフガニスタンの地雷対策におけるわが国の貢献を事例に」、財団法人日本国際問題研究所・平成 15 年度外務省委託研究報告書『紛争予防』、2004 年、43-64 頁
- 「アンネを友達にもつこと～『人道的』想像力を育むために」、財団法人 2001 年日本委員会、【21 世紀への提言】第 15 回懸賞論文受賞論文集『21 世紀の教育を考える』、2004 年、16-20 頁
- 「イラク戦争と対人地雷の廃棄完了」、『世界と議会』、2003 年 6 月号、19-27 頁
- 「私たちが目指すものは？ 条約の普遍化か、条約の完成度を高めるのか」、『JCBL ニュースレター』、地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)、2003 年 2 月第 24 号、3-4 頁
- 「除去作業における重機の限界と可能性および不発弾の脅威」、外務省(編)『対人地雷の探知・除去技術開発のためのアフガニスタン政府調査団報告書』2002 年、30-37 頁
- 「国際支援が届かない『見えない難民』」、『エコノミスト』、2001 年 11 月 27 日号
- 「旧ユーゴ紛争における救援活動の特殊性」、難民を助ける会(編)『スルツェ ころろ ～旧ユーゴ紛争と戦争トラウマ NGOの挑戦』、1998 年、17-37 頁
- アムネスティ・インターナショナル日本支部人権講座講演録「紛争地での緊急難民支援」、アムネスティ・インターナショナル日本支部(編)『難民からみる世界と日本』、現代人文社、1998 年、48-81 頁
- China report for *Landmine Monitor Reports*, 1999, 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, and 2008, International Campaign to Ban Landmines
- 「対人地雷問題 リポート 2003 ～ 5 年目を迎えた対人地雷禁止条約—いまなお多い未締約国」、『現代用語の基礎知識 2004』(自由国民社、2004 年)、1385 頁
- 報告 地雷に関する東京セミナー「もっと現場の声を」、『JCBL ニュースレター』、地雷廃絶日本キャンペーン (JCBL)、2004 年 4 月第 29 号、3-4 頁
- 「対人地雷問題リポート 2002」、『現代用語の基礎知識 2003』、(自由国民社、2003 年)
- 崩される平和・破壊されゆく人間性、「目を覚ましていること」、『あけぼの』、聖パウロ女子修道会、2003 年 7 月号、14 頁
- 「心のスイッチを切らないで」、『教育いばらき』、茨城県教育委員会、2002 年、6 頁

- 「対人地雷問題レポート 2001」、『現代用語の基礎知識 2002』(自由国民社、2002年)180頁
- 「対人地雷問題レポート 2000」、『現代用語の基礎知識 2001』、(自由国民社、2001年)4頁
- 茨城県特集 県立高入試問題と解答「入試を終えた皆さんへ 最大限自分らしく」、読売新聞、2001年3月7日
- 「地雷問題マップ」、『現代用語の基礎知識 1998』、(自由国民社、1998年)、4-6頁
- NGO第一線 続・異文化との接点で「戦乱の中で得たもの」、『世界週報』、第33号、1996年6月11日号、42-43頁
- エッセイ 戦時下の人道援助 「言葉は無効 行動で信頼を」、『外交フォーラム』、1996年5月号(通巻92号)、68-72頁
- 「私が見た旧ユーゴ紛争」、『週刊金曜日』、第33号、1994年7月8日号、26-31頁

6. 編著

- 在日インドシナ難民奨学金給付学生文集『二つの祖国 二つの故郷—アイデンティティの危機を越えて』、難民を助ける会、1993年

7. 主な学会・研究会報告

《所属学会》

国際法学会、日本国際政治学会、人間の安全保障学会 (JAHSS)、日本平和学会、日本軍縮学会、社会デザイン学会、国際ボランティア学会

- “Assessing the legacy of the International Criminal Tribunal for the former Yugoslavia (ICTY) from the viewpoints of R2P and POC “、人間の安全保障学会第7回研究大会、立命館大学、2017年11月4日
- 「国連と NGO・非国家主体との交錯にみる変容と現在」、国際法学会 2015 年度年次大会、名古屋国際会議場、2015年9月19日
- 「人道と『人間の安全保障』の課題からみる日本の ODA—その評価と課題—」日本国際政治学会 2014 年度研究大会、福岡国際会議場、2014年11月16日
- “Japan's triple disaster and relief cooperation, Disaster relief cooperation among the Asia nations” Asia Economic Community Forum, Seoul, December 2011

- “Five months after 3.11: Japan's triple disaster and the challenges of Japanese civil society”, Australian National University, College of Law, 9 August, 2011
- 「ICTY の遺産—ICTY は旧ユーゴの和解と安定に何をもたらしたか」、シンポジウム「東欧地域研究の現在、そして未来への展望」東京大学、2010年1月9日
- 「移行期正義の現状と課題：国連旧ユーゴスラビア国際刑事裁判所（ICTY）とスレブレニツァ事件を事例に」,「コンフリクトの人文科学」セミナー 第33回,大阪大学グローバルコラボレーションセンター,2009年7月9日
- “Srebrenica and Intervention of International Community”, United Nations University, Policy Forum on Sustainable Peace and Development, 26 June, 2009
- 「スレブレニツァ・ジェノサイドと国際社会の対応」,講演会 Peace Colloquium シリーズ,「国際人道法の最前線」,ICU 平和研究所,2009年5月26日
- “Reconstruction of civil society after 1945 and the current trend among the Japanese humanitarian NGOs”, Symposium “Civil Society in Germany and Japan : Concepts and Practices”, Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg , 10 October, 2008
- 『人間の安全保障』の理論と実践を結ぶ～平和構築・人道支援の現場における『人間の安全保障』、人間の安全保障コンソーシアム、中部大学、2007年9月22日
- 「スレブレニツァをめぐる考察—ICTY 判決とジェノサイド研究：歴史学的アプローチの違いをめぐる」、日本平和学会 2006 年度秋季研究大会、山口大学、2006年11月11日
- 「人道援助と中立～ハンナ・アーレントをめぐるロニー・ブローマンの議論から」国際ボランティア学会第6回大会、大阪大学、2005年2月19日

8. 研究助成（科学研究費補助金）

《研究代表者》

- 【研究種目】基盤研究C（一般）【研究期間】平成29～31年度
【研究課題】「ICTY 判決とジェノサイド後の社会の相克—スレブレニツァを事例として」
- 【研究種目】研究成果公開促進費・学術図書【研究期間】平成20年度
【研究課題】『スレブレニツァ』の刊行
【研究成果】東京大学大学院総合文化研究科の博士学位論文『スレブレニツァ あるジェノサイドをめぐる考察』として東信堂より1000部出版した。（500部増刷）

《研究分担者》

- 【研究種目】 基盤研究A（一般）【研究期間】 平成 26～28 年度
【研究課題】 「中国・インド大国化とアジア内政変動と外交変容の交錯」

- 【研究種目】 基盤研究A（一般）【研究期間】 平成 23～25 年度
【研究課題】 「広域アジアの市民社会構築とその国際政治的課題」